

平成 23 年 6 月 15 日現在

研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2009 年～2010 年  
 課題番号：21792190  
 研究課題名（和文） 一般診療所に就業する看護師の感染予防看護技術に関する看護継続教育プログラムの検討  
 研究課題名（英文） Continuing nursing education program in Clinic: The skill of nursing care and infection control.  
 研究代表者：名渡山 智子（Tomoko NADUYAMA）  
 沖縄県立看護大学・看護学部・看護学科・講師  
 研究者番号：80382456

研究成果の概要（和文）：一般診療所に就業する看護師 3 名を対象に、感染予防看護技術に関する学習ニーズについて面接調査を行った。その結果、無菌操作技術のように原則が変わらない看護技術については、ニーズとして抽出されなかった。一方、標準予防策のように比較的あたらしい感染予防の概念や行為についての学習ニーズが明らかとなった。また、一般診療所では看護師が医療器具の滅菌・消毒を行うため、滅菌・消毒法についての学習ニーズが明らかとなった。明らかとなったニーズをふまえ、感染予防看護技術に関する勉強会を実施した結果、感染予防策については、コストなどの面から、手袋やガウンなどの感染防護具を必要なときに必要なだけ使用することに躊躇している現状もあり、病院で行われているような感染予防看護技術を、一般診療所にそのまま取り入れることに対する違和感を有する者もいた。そのため、一般診療所に就業する看護師の感染予防看護技術に関する看護継続教育プログラムにおいては、感染予防の原則を守りつつ、一般診療所に適した感染予防の方法を検討すること先決であると考えられた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a continuing nursing education program which focus on the skill of nursing care and infection control in clinic. The objects of this study were the three nurses who work on clinic. The semi-structured interview of “learning needs of nursing care and infection control” was done. Analytical methods to extract from the need of the interview transcripts, similar content together. There were two learning needs “Knowledge of standard precautions ” and “Methods of disinfection end sterilization” . One action plans was determined. These strategies consisted of two seminars. It should be discuss that the most appropriate of nursing skill for nursing care and infection control in clinic.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：感染予防、看護技術、看護継続教育、一般診療所

### 1. 研究開始当初の背景

近年、無床一般診療所の数が増加し、一般診療所で就業する看護師数も増加している。また、医療機関の機能分化・連携が進むなか、一般診療所の果たす役割は大きく、そこで就業する看護師が看護の質を維持、向上することが求められる。しかし、一般診療所で就業する看護師を対象とした看護継続教育は、ほとんど取り組まれていない。特に、感染予防看護技術は患者の安全を守る技術として重要であり、一般診療所に就業する看護師を対象とした感染予防看護技術に関する看護継続教育プログラムの開発が急がれる。

### 2. 研究の目的

一般診療所における看護の質の維持、向上を目指し、一般診療所に就業する看護師を対象としたアクションリサーチとして、そこに就業する看護師の感染予防看護技術に関する学習ニーズを明らかにし、その学習ニーズに合致した感染予防看護技術の看護継続教育プログラムについて検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

研究者がアクセス可能な距離にあり、研究協力の得られた一般診療所2施設に就業する看護師3名を研究参加者とし、2010年1月から2010年8月にアクションリサーチを行った。

(1) 面接調査：研究参加者に、インタビューガイドを用いた半構造化面接を実施した。面接は、20～30分程度で行い、1回実施した。面接内容は①感染予防看護技術について、知識が不足していると感じていること、②看護ケアにおいて、感染予防看護技術に関して困ったことや迷ったこと、③感染予防看護技術について学びたいこと、④感染予防看護技術について研修を受けるうえでの条件であった。面接内容は、研究参加者の同意を得て録音した。

(2) データ分析：個別面接の録音テープから逐語録を作成し、感染予防看護技術の学習ニーズという観点で面接内容を質的帰納的に分析した。分析過程においては、質的研究の経験のある研究者のスーパーバイズを定期的に受けながら進めた。分析過程ではデータや分析結果を示して、複数の研究者からの評価も受け、信用可能性の確保に努めた。

(3) 勉強会の実施：面接調査で明らかになっ

た研究参加者の感染予防看護技術に関する学習ニーズをもとに、感染予防看護技術の勉強会を計画・実施した。

(4) 勉強会の評価とプログラムの検討：計画したすべての勉強会を終了した後、先に個別面接で協力を得た研究参加者に、再度、インタビューガイドに沿って面接を行い、ニーズの充足の程度を把握した。面接の時間は20～30分とし、研究協力者の同意を得て録音する。把握したニーズの充足の程度から勉強会の評価を行い、このプロセスをもとに、一般診療所に就業する看護師の感染予防看護技術に関する看護継続教育プログラムについて検討した。

(4) 倫理的配慮：研究参加者には、本研究の主旨・概要および研究協力への自由意思、個人情報守秘などの倫理上の配慮について口頭および文書で説明した上で同意を得た。本研究は、沖縄県立看護大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号09017)。

### 4. 研究成果

(1) 一般診療所に就業する看護師3名を対象に、感染予防看護技術に関する学習ニーズについて面接調査を行った。その結果、無菌操作技術のように原則が変わらない看護技術については、ニーズとして抽出されなかった。一方、標準予防策のように比較的あたらしい感染予防の概念や行為についての学習ニーズが明らかとなった。また、一般診療所では看護師が医療器具の滅菌・消毒を行うため、滅菌・消毒法についての学習ニーズが明らかとなった。

(2) 明らかとなったニーズをふまえ、感染予防看護技術に関する勉強会を2回実施した。勉強会は、研究者が対象施設に出向き、施設の昼休憩時間、あるいは、診療時間が午前中に終了する曜日の診療時間終了後に20～30分程度の時間で実施した。

その内容は下記の通りである。

①標準予防策、滅菌と消毒法について。

②看護管理の視点からの感染予防について。

(3) 標準予防策については、コストなどの面から、手袋やガウンなどの感染防護具を必要ときに必要だけ使用することに躊躇している現状もあり、病院で行われているような感染予防看護技術を、一般診療所にそのまま取り入れることに対する違和感を有する者もいた。そのため、一般診療所に就業する看護師の感染予防看護技術に関する看護継

続教育プログラムにおいては、感染予防の原則を守りつつ、一般診療所に適した感染予防の方法を検討すること先決であると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

名渡山 智子 (Tomoko NADUYAMA)

研究者番号 :

(2) 研究分担者

( )

研究者番号 :

(3) 連携研究者

( )

研究者番号 :